



## MEDICAL OFFICE

医療の最前線からのワンポイントアドバイス

医学部内科学教室（循環器）

教授

いえだまさき  
家田真樹

# 心不全とは？ 症状、診断、治療

心不全とはさまざまな原因により心臓のポンプ機能が低下して、呼吸困難、倦怠感、浮腫（足のむくみ）などが出現し、それに伴い運動機能が低下する症候群です。心不全は心筋梗塞、弁膜症、不整脈、心筋症（心臓の筋肉の病気）などさまざまな原因で引き起こされることが知られています。我が国の心不全による入院患者数は年間20万人を超え、さらに年々増加しており、最近では心不全、パンデミックともいわれ大きな社会問題となっています。

心不全を疑う症状としては、息切れがしやすい、足のむくみがとれない、以前と同じ運動ができなくなったなどが受診のきっかけになります。また健康診断や人間ドックなどから医療機関に紹介されるケースもあります。ここで注意が必要なのが、胸が痛い、激しい動悸がするな

ど、一般の方が心臓病をイメージしやすい症状がなくても心不全と診断される“隠れ心不全”が相当数いることです。息切れやむくみなどは心臓以外の病気でも出現しますが、特に既往で冠動脈疾患、高血圧、糖尿病、化学療法後などのリスク因子を有する場合や、ご家族に心臓病の方がいる場合には、心不全を考慮して医療機関を早めに受診することをお勧めします。

心不全の検査として簡便な方法の一つが血液検査です。血中BNPあるいはNT-proBNP値の測定をして、BNP  $\geq 100$  pg/mLある、またはNT-proBNP  $\geq 400$  pg/mLであれば心不全の可能性を考えます。一方、これらの数値が正常範囲である場合には心不全の可能性は低くなります。また血液検査に加えて心電図、胸部エックス線、心臓超音波検査（心エコ

ー）、CT、MRI、心臓カテーテル検査なども病態に合わせて検査し診断します。心不全と診断されても不治の病というわけではありません。心筋梗塞、弁膜症、不整脈、心筋症など原因や重症度により治療法は異なり、内科的な薬物治療、循環器内科で行う心臓カテーテル治療、心臓血管外科で行う手術（バイパス手術、弁膜症治療）などさまざまな選択肢があります。また高血圧、糖尿病、肥満などは心不全の増悪因子として知られていますので、生活習慣の改善として減塩減量、禁煙、適度な運動などを心掛けて生活することも大事です。



心不全の症状。息切れ、倦怠感、むくみに注意